

医師が語る

処方せんの裏側

処方せん

この処方せんは、どの保険薬局でも有効です

患者	氏名	田沢 雄一	性別	男	保険医療機関の所在地及名称	総合南東北病院 〒963-8563 福島県郡山市八山田7-115
	生年月日	平成32年12月13日生	年齢	殿	電話番号	024-934-XXXX
社保	被保険者	国保	世帯主	負担割合	保険医氏名	西野 徳之
	被扶養者	保	組	割合		
交付年月日	平成21年9月12日	処方せんの使用期間	平成 年 月 日	特に記載のある場合を除き、交付の日を含めて4日以内に保険薬局に提出すること。		
処方	タケプロンカプセル15 1カプセル					
	1日1回 朝食後 60日分					
備考						



西野 徳之氏
Nishino Noriyuki

1987年自治医科大学医学部卒業。利尻島国保中央病院院長などを経て、2000年より脳神経疾患研究所附属総合南東北病院に勤務。2007年、消化器センター長に就任。消化器疾患全般と生活習慣病などの総合内科診療に携わる一方で、胆膵領域の内視鏡治療や、抗癌剤や陽子線を用いた消化器癌の専門的治療も手掛けている。

PPIを「毎日飲ませない」理由

「だんだんペースがつかめてきました。2日に1回がいいみたいですわね」。サラリーマンの田沢雄一さん（仮名、51歳）は診察室に入るなり笑顔でこう話した。私は、プロトンポンプ阻害剤（PPI）のタケプロン（一般名：ランソプラゾール）を60日分処方して、「また4カ月後」と言い添えた。

3カ月前、人間ドックの内視鏡検査で軽症の胃食道逆流症（GERD）が見付かった田沢さん。最初はタケプロンを毎日服用してもらい、症状が治まったところで「これからは薬を2日に1回、3日に1回と徐々に減らしてみてください。症状が出たらまた回数を増やします。自分に合ったペースで飲むようにしましょう」と指導した。

このように私は、安定期のGERD患者に対し、PPIの服用間隔を自己調節するよう指導している。GERDの治療目標は、患者の生活の質（QOL）を高めること。自覚症状を指標に、患者に服用のペースを決めさせて構わない疾患なのだ。また、胃壁細胞のターンオーバー（入れ替わり）には約1週間かかる。PPIは細胞に結合して胃酸をブロックするため、原理的には1日1回飲まなくても、ある程度は制酸効果が持続する。薬剤の量が最低限で済む上、忙しい患者の場合、通院回数を減らすこともできる。

私が診ているGERD患者には、普段は2日に1回なのに、年末年始や決算期になると毎日飲むなど、生活環境の変化に合わせて服用間隔を調節している人もいます。薬剤師の皆さんも、処方日数と受診間隔が合わず、コンプライアンスの悪さが疑われる患者が来た場合は、医師の指示の下で服用間隔の自己調節を行っている可能性があることを思い出してほしい。（談）

